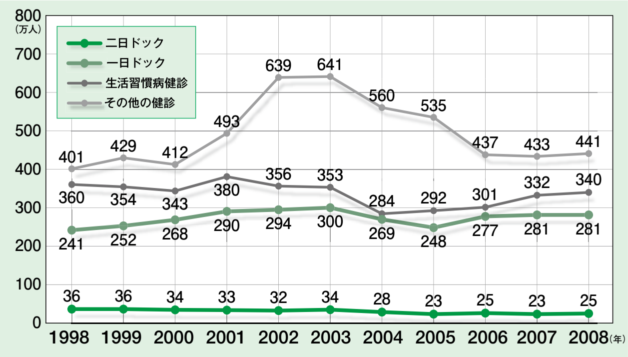
全国集計報告（2008年人間ドックの現況より）

毎年、学術大会にて発表している委員会報告『全国集計成績報告』について、2008年 人間ドックの現況より一部抜粋した。

2008年調査対象施設 計712施設（平成20年12月現在）

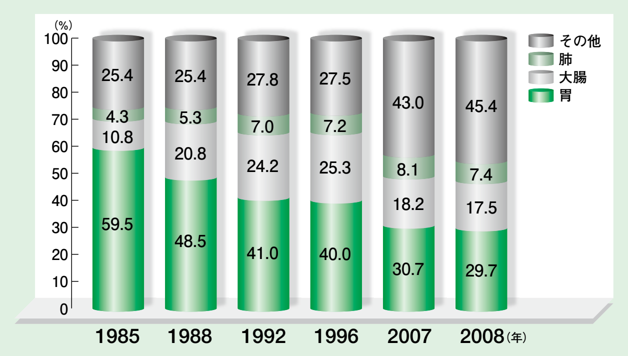
●二日ドック優良指定施設 ……391/450施設
●一日ドック指定施設 …………108/122施設
●機能評価認定施設 ……………213/225施設
◎総受診者数（統計対象者数）…2,951,767人

❖最近10年間の各種人間ドック健診受診者数の推移



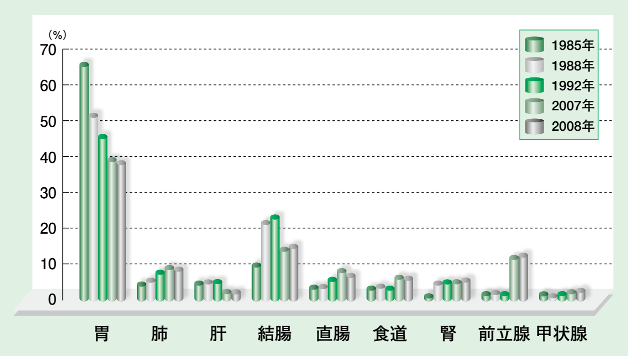
1998年からの最近10年間の受診者の推移を表している。二日ドックは、36万人から25万人と年々減少し、一日ドックは40万人増加し、281万人に達している。

❖人間ドックで発見した臓器別がん占有率の経年変化（全体を100%として各臓器別割合図示）



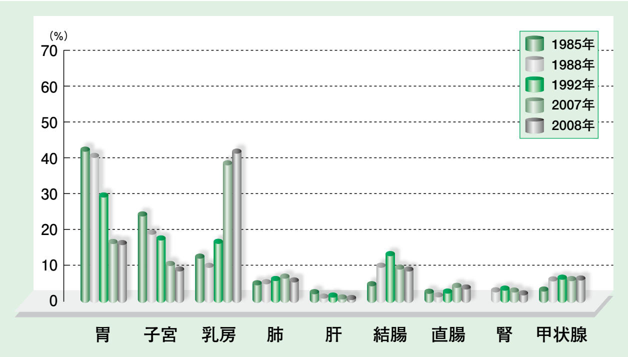
1985年では、胃がんが全体の6割をしめていたが、2008年は3割と半分に減少し、その他のがんは2倍弱増加している。
時代により、がんの変化もみられることがわかる。

❖人間ドックで発見した臓器別がん占有率の経年変化（男性の年別比較）



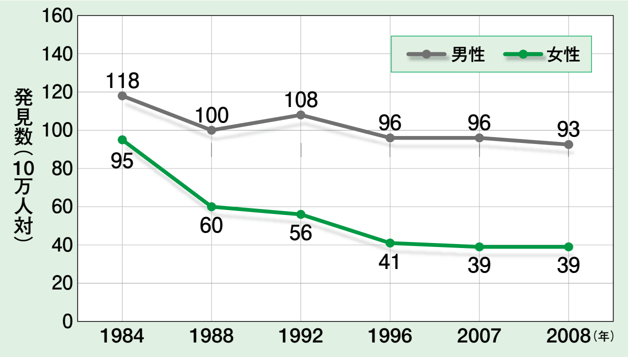
男性では、全体でみても胃がんが圧倒的に多いが、年々減少傾向にある。
顕著な変化を見せているのは、前立腺がんで1990年代後半から4倍近く増加している。これは、PSA検査の普及率により比例して増加している。

❖人間ドックで発見した臓器別がん占有率の経年変化（女性の年別比較）



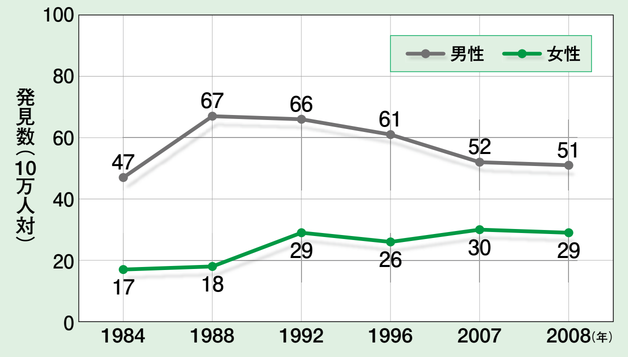
女性では、1985年当時は、胃がんが圧倒的に多かったが、子宮がんと共に年々減少傾向である。
乳がんは1990年代後半から3倍近く増加し、マンモグラフィー検査の普及率により増加しているといえる。

❖人間ドックの性別胃がん発見数（年別比較）



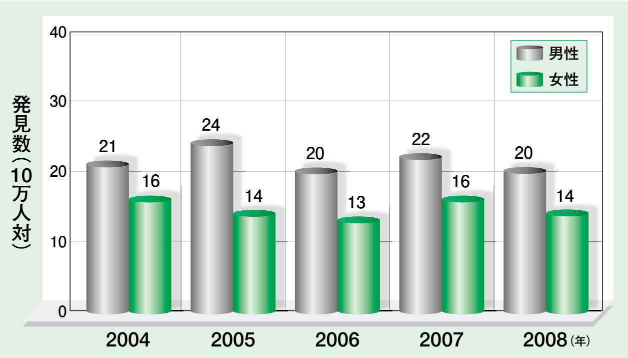
1984年からの胃がんの発見数推移については、男性も女性も徐々に下がってきている。
特に女性は半分以下に減ったことがわかる。

❖人間ドックの性別大腸がん発見数（年別比較）



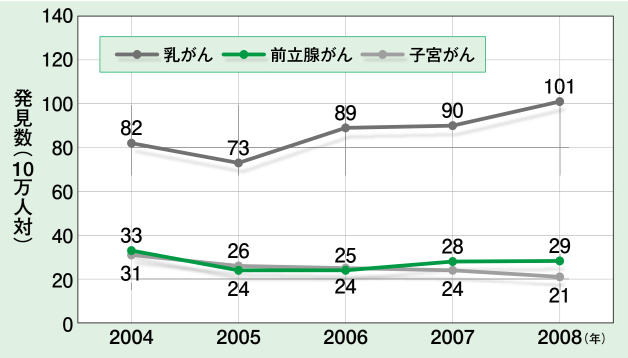
1984年からの大腸がんの発見数の推移は、男性は、1988年にかなり増加したが、徐々に下がり、1984年当時とほぼ同数になった。女性は胃がんとは反対に増えてきている傾向にある。

❖人間ドックの性別肺がん発見数（年別比較）



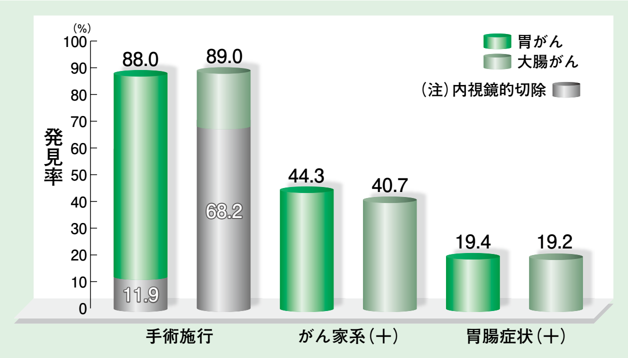
肺がん発見数については、最近5年間の経年変化だが、男女ともにあまり5年間の変化はみられない。

❖最近5年間の前立腺がん・乳がん・子宮がんの発見数



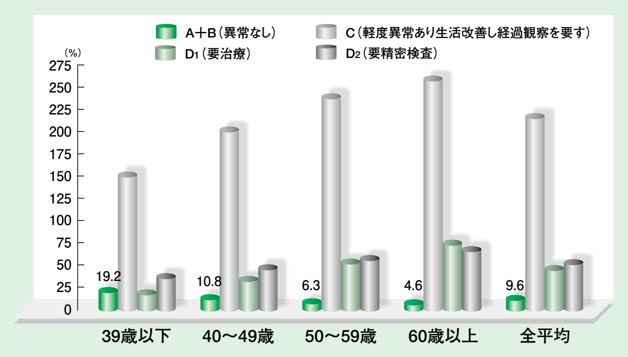
2004年からの最近の経年変化だが、前立腺がんはほぼ変わらず、子宮がんは徐々に減少傾向になっている。乳がんは、5年間で2割程度増加している原因は、若年層の発見率が目立っていたためと考えられる。

❖発見胃・大腸がんの手術・家系・胃腸症状について



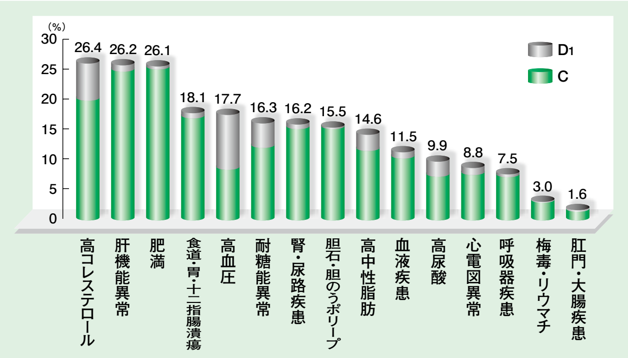
胃がん・大腸がんのの手術施行では、大腸がんは内視鏡的切除が主なことがわかる。
がん家系・胃腸症状については、胃がん・大腸がんともにほぼ同率だった。

❖判定別・年代別総合成績（2008年）対象：2,951,767人



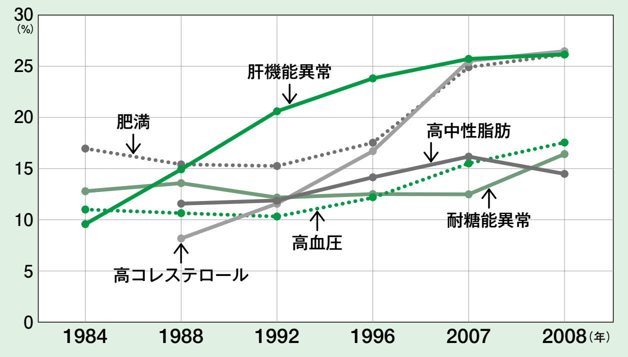
1988年当時では、総受診者数は、わずか90万人だったが、20年経った2008年では、対象数は295万人になった。

❖人間ドック検査項目別異常者頻度



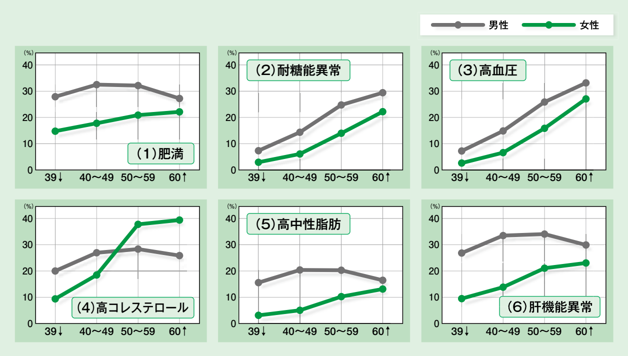
調査開始当時は、耐糖能異常、肥満、高血圧の順だったが、最近では高コレステロール、肝機能異常、肥満の順に変わってきた。

❖6項目異常頻度（年別比較）



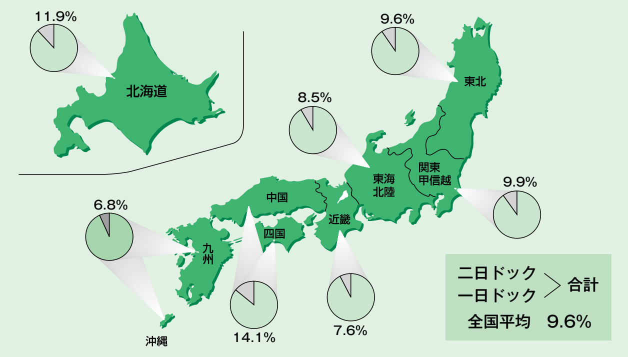
6項目異常頻度の変化について、1984年からの変化をみるとすべての項目は増加していることがわかる。肝機能異常、肥満、高コレステロールは、昨年と同じ数値となった。

❖年代別6項目異常頻度（性別比較）



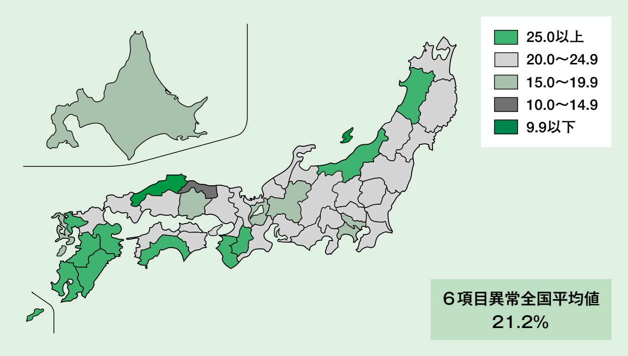
年代別6項目異常頻度の性別比較は、調査開始当初とほぼ同じ図を示していた。
高コレステロールは加齢につれ、男女差が入れ替わり、女性のほうが高値を示し、それ以外はすべて男性のほうが高い。

❖健常者頻度の地域差



1988年は、全国平均27.6%だった健常者頻度だが、2008年には9.6%と、調査開始より初めて10%以下となり、過去最低となった。20年前は、地域差も大きかったが、最近は地域差もほとんどなくなってきた。

❖都道府県別健康度マップ（6項目異常平均値比較）



6項目異常平均値の都道府県別比較も同様に1988年では地域差が大きかったが、現在ではあまり差がない。地域の特性が失われてしまった現代の社会環境も影響していると言える。

❖人間ドック検査項目の主な改定の変遷（概要）

区分	検査項目／改定年度（西暦）	※右記以前（～1974）	昭和50（1975）	昭和51（1976）	昭和54（1979）	昭和59（1984）	平成2（1990）	平成8（1996）	平成16（2004）	平成17（2005）	平成20（2008）	備考（最新版の備考等として記載）
身体計測	身長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	体重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	肥満度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	BMI	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	腹囲										◎	
生理	血圧測定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原則2回測定値と平均値
	心電図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	負荷試験は任意で実施
	心拍数								◎	○	○	
	眼底検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両眼撮り
	眼圧検査		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
	視力検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	聴力検査						△	◎	○	○	○	簡易聴力
	呼吸機能検査						◎	○	○	○	○	1秒率、%肺活量
X線・超音波	胸部X線	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	フィルム大角2枚、2方向
	上部消化管X線	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	胃X-P 4F8枚以上（分割を含む
	腹部超音波					◎	○	○	○	○	○	検査対象臓器は胆のう・肝臓（脾臓を含む）・膵臓・腎臓とする。但し、膵臓検出できない時はその旨記載すること。
	CTによる内臓脂肪面積計測										△	
生化学	総蛋白			◎	○	○	○	○	○	○	○	
	A/G				◎	○	○	○	○	○	×	
	アルブミン			◎	○	○	○	○	○	○	○	
	尿素窒素				◎	○	○	×				
	クレアチニン		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
	尿酸		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
	総コレステロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	HDLーコレステロールまたはアポ蛋白					◎	○	○	×			
	HDLコレステロール								◎	○	○	
	LDLコレステロール								◎	○	○	直接法とする（Friedewaldの計算式による算出でも可）
	中性脂肪		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
	総ビリルビンまたは尿ビリルビン				◎	○	○	○	×			
	総ビリルビン								◎	○	○	
	TTT				◎	○	△	×				
	ZTT	○	○	○	○	○	△	×				
	AST（GOT）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ALT（GPT）		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
	LDH				◎	○	○	×				
	γ-GT（γ-GTP）					◎	○	○	○	○	○	
	ALP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	LAP				◎	○	△	×				
	コリンエステラーゼ						△	×				
	アミラーゼ						△	×				
	血糖（75gブドー糖負荷試験）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2日ドックのみ
	血糖（空腹時）									◎	○	
	HbA1c									◎	○	
	血清鉄								◎	○	○	2日ドックの女性のみ
	空腹時インスリン濃度										△	

平成21年度現在

区分	検査項目／改定年度（西暦）	※右記以前（～1974）	昭和50（1975）	昭和51（1976）	昭和54（1979）	昭和59（1984）	平成2（1990）	平成8（1996）	平成16（2004）	平成17（2005）	平成20（2008）	備考（最新版の備考等として記載）
血液学	赤血球	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	白血球	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	血色素	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ヘマトクリット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	血小板数						◎	○	○	○	○	
	MCV						◎	○	○	○	○	
	MCH						◎	○	○	○	○	
	MCHC						◎	○	○	○	○	
	血液像	○	○	○	○	○	○	×				
	血沈	○	○	○	○	○	○	×				
血清学	RA		◎	○	○	○	○	×				
	CRP			◎	○	○	○	○	○	○	○	
	血液型（ABO）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	初回のみ必須
	血液型（Rh）		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	初回のみ必須
	梅毒反応（ガラス板法または凝集法）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	
	梅毒反応（梅毒脂質抗原使用法）										◎	希望者のみ
	TPHA			◎	○	○	○	×				
	HBs抗原						◎	○	○	○	○	希望者のみ
	HCV抗体							△	△	△	△	
	PSA									△	△	50歳以上の男性に
尿	蛋白	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	PH										◎	
	尿糖							◎	○	○	○	
	沈渣	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	蛋白、潜血反応が陰性であれば省略可
	潜血						◎	○	○	○	○	
	比重						◎	○	○	○	○	
便	潜血					◎	○	○	○	○	○	免疫法で実施（2回法）
	虫卵	○	○	○	○	○	○	×				
病理	子宮頚部細胞診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2日ドックの女性のみ
	喀痰細胞診						△	×				
問診・診察	内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	乳房触診							◎	○	×		
	乳房画像診断								△	×		
	乳房触診＋乳房画像診断（マンモグラフィー・超音波検査）									△	△	
	直腸診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	
	情報提供										◎	特定健診情報提供を含む
	質問票										◎	特定健診質問票22項目を含む
	婦人科						◎	○	○	○	○	2日ドックの女性のみ
説明、教育、指導		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※日本病院会および日本人間ドック学会は昭和34年から人間ドック実施病院指定を開始し、それに伴い検査項目も定めてきている。昭和34年から昭和50年までの間にも検査項目の変更はあったが、本表では最近35年間の変遷を主に示すこととし省略した。
○印は基本検査項目、◎印は当該年度新規追加基本検査項目、△印は任意検査項目、×印は当該年度削除項目を表示

❖人間ドック／他の健診との比較表

	身体計測					診察						血圧等	生化学検査																	血糖検査		尿検査						血液学検査				
項目名	身長	体重	BMI	腹囲	肥満度	業務歴	既往歴	自覚症状	他覚症状	直腸検査	婦人科	血圧（収縮期／拡張期）	中性脂肪	HDLコレステロール	LDLコレステロール	AST（GOT）	ALT（GPT）	γ-GT（γ-GTP）	総コレステロール	ALP	総蛋白	アルブミン	総ビリルビン	LDH	アミラーゼ	尿酸	クレアチニン	糖負荷試験	血清鉄	空腹時血糖	HbA1c	尿糖	尿蛋白	潜血	沈渣	PH	比重	ヘマトクリット値	血色素量［ヘモグロビン値］	赤血球数	白血球数	血小板数
日本人間ドック学会／日本病院会 健康保険組合連合会／人間ドック	○	○	○	○	○	○	○	○	○		▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	▼	▼女性のみ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全国健康保険協会管掌 健康保険生活習慣病予防健診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□		○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	▲	▲	▲	▲	○	○			○	■1	○	○	○	▲			○	○	○	○	▲
高齢者医療確保法	○	○	○	○			○	○	○			○	○	○	○	○	○	○												●	●	○	○					□	□	□		
労働安全衛生法	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○												●	●	○	○						○	○		
学校保健法	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○												●	●	○	○						○	○		

○…必須項目、□…医師の判断に基づき選択的に実施する項目、●…いずれかの項目の実施で可、☆…情報を入手した場合に限り医療保険者に報告する項目
※…服薬歴及び喫煙歴については、問診等で聴取を徹底する旨通知、△…受診者の希望に基づき選択的に実施する項目
◎…35歳以上の者（過去に当該検査を受けたことがない者）の希望に基づき実施する項目、▲…健康保険生活習慣病予防健診における付加健診の項目

平成21年度現在

血液学検査			生理学検査													便	病理	その他医療保険者が任意に行う検査など（主なもの）									医師の判断		説明・教育・指導	質問票（主なもの）												
MCV	MCH	MCHC	心電図	胸部エックス線検査	喀痰検査	（ガフキー）	上部消化管エックス線	視力	聴力	眼底検査	眼圧検査	呼吸機能検査	上部消化管内視鏡検査	腹部超音波検査	心拍数	潜血	子宮頸部細胞診	CRP	血液型	梅毒反応	HBs抗原	HCV抗体	PSA（前立腺特異抗原）	乳がん検診（触診+画像診断）	CTによる内臓脂肪面積	空腹時インスリン濃度	医師の判断（判定）	医師の意見		服薬	既往歴	貧血	喫煙	20歳からの体重変化	30分以上の運動習慣	歩行又は身体活動	食習慣	飲酒	飲酒量	睡眠	生活習慣の改善	保健指導の希望
○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	▼	○	○	○	○	★	★	★	★	★	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			○	○			○	○	○	□▲		▲	□	▲		○	△				◎	◎		△						○	☆	☆	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
			□							□																	○			○	☆	☆	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
			○	○	□	□		○	○																		○	○		※	○		※									
			○	○	□	□	○	○	○																		○	○														

■1…空腹時血糖の検査が実施できない場合HbA1cで代替可、▼…二日ドックのみ実施する項目
★…オプション検査項目として設定している項目（対応できる実施機関は実施体制を整備し、受診者等の希望に基づき実施する項目）